

エンパル

広がるSCCの防災研修 対象拡大、地域と取り組みも

SCCで防災啓発イベントなどを行うEnParl（エンパル、金藤純子代表）は、防災研修「ESほろぎい」を強化し、成果を上げている。研修先も増えており、今後は店長以外を対象にした研修やSCCと地域が一体となった研修も始める予定だ。

同研修は「災害時に、お客だけでなく、SCCで働くスタッフの安全・安心のため、ショップとSCCが一体となって防災組織力を高める」（金藤代表）目的で、実施。スタッフの自宅を含めた危機管理を強化することでES（従業員満足）向上にもつなげる。研修は主

にSCCとテナント店長が対象。事前に従業員の防災意識、準備、理解度、対応力などのアンケートをテナントから取り、その結果を金藤代表が分析・報告し、店長を対象に自宅のハザードマップをもとにした防災に関するワークショップを実施する。金藤代表は岡山県



倉敷市真備町の実家が18年7月の西日本豪雨で被災し

ており、その経験も伝えて
いる。

新静岡セノバでは23年1月に開始し、11月にも実施。テナント企業では、アイジーエーが昨年8月に約70人の店長を対象に行った。今年1月24、26日にパシフィコ横浜で開かれた「SCCビジネスフェア2024」に昨年に引き続き出展。24日に無料セミナーを行い、新静岡セノバを運営する静鉄プロパティマネジメントの佐藤壽康常務セノ

バ事業部長とアイジーエーの五十嵐昭順社長が研修の成果や防災対策などを報告した。

佐藤氏はセノバで年間48回実施している防災訓練の取り組み、22年9月の台風に伴う集中豪雨の際の施設の対応、研修を受けた店長の声などを報告。

「デイベロツパーと店長、スタッフが一緒になって、地域防災でのリーダーシップを発揮しなければならぬ」と強調した。五十嵐氏は防災対策として、「備品の購入や連絡網の整備、保険加入の確認と見直しなどが重要」と指摘。防災を「全スタッフが自分事として捉えることが大切」とした。

セミナーにはデイベロツパー関係者など前回を大幅に上回る約150人が参加。セミナーを踏まえ、おのだサンパーク（山口県）が5月に研修を実施することが決まった。「他のデイベロツパーにも広がりそう」（金藤代表）という。アイジーエーでは今後、店長以外のショップスタッフを対象にした研修を実施、新静岡セノバでは施設と町内会を対象とし、「地域の人たちを巻き込んで協働体制をつくる」ための地域防災研修を24年度に始める予定。これらを他企業にも広げる方針だ。